令和４年度　江戸川区立篠崎小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	○よく考える子　○心豊かな子　○じょうぶな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○確かな学力をはぐくむ学校　○豊かな心と健やかな心をはぐくむ学校　○保護者・地域から信頼される学校 ○人間性豊かな子　○夢や希望をもって自分のもてる力を発揮する子　○次代を担う意識を高くもつ子 ○豊かな人間性をもち、確かな指導力を身に付け、協働する実行力を備える教師　○子供のよさを認め、可能性を伸ばし育てる教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞コロナ禍による制限のある中、安全を確保しながら、再開できる取組を増やすことで、保護者への説明責任を果たすことができた。配慮を要する児童の様子や変化、それに基づいた対応の仕方について細やかに共通理解を図り、組織的に児童の支援にあたることができた。 ＜課題＞学力向上について、引き続き、授業改善と基礎基本の定着を図るとともに、家庭との連携による学習習慣を付ける力策をとる。一人一台タブレット端末配布に伴う授業改善をさらに加速させるため、特に、学習の個別最適化と協働学習の充実に向けた研修を図る必要がある。 校舎建替えに伴う、体力維持のための環境整備や、コロナ禍による制限のある中でできる活動の検討等、教育活動の充実に努める。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	年度末に向けた改善策
	確かな学力の向上 1	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善 ・ねらいを明確にした問題解決型授業、体験的活動の実施と、対話等考えの交流を通して学びを深める授業への改善を図る。 ・指導と評価の一体化を図り、授業展開の中でつまずきに対応した手立てを講じて確実な習得を図る。 ・保護者の協力を得た家庭学習の充実。定着を図るための復習や自学、簡単な予習を組み合わせて課題を出し習慣化させる。 ②「各教科等の連携教育プログラム」の改善・実施 ③一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 ・全学級にて授業や学習活動で活用。 ④学力向上のための補習の充実 ・外部講師による区の補習教室の実施。 ・担任による個の必要に応じた未習熟箇所への立戻りも含めた補充指導の実施。 ⑤小学校における教科担任制の導入 ・効果的な実施方法の検討と時間割調整。先行実施学年の内容検証と全学年導入 ⑥「eライブラリアドバンス江戸川っ子study　week！」 ⑦東京ベーシック・ドリルの活用 ・「診断テスト」(算数)を実施し、必要に応じた補習を行う。	①全国学力学習状況調査での「わかる」肯定的回答。【8割】 ①「健康ふりかえりカード」(前期)での家庭学習実施状況について、「児童アンケート」(後期)での「学年×10分以上」実施状況肯定的回答。【8割】 ②ブロック5校共通のプログラムにおける各教科等の「重点内容」の指導徹底。 ③学習用端末持参と活用【毎日】、篠小タイム(朝学習)にてeライブラリアドバンス教材活用。【毎週水曜日・週替わりで国語と算数】 ④「区外部講師による放課後補習教室」【2年生以上計150回程度実施】、担任による放課後補充指導実施。【年35回(週1回)以上】 ⑤学年担任による交換授業実施【2学期より高学年(国・社・理)で先行実施、その後全学年で導入】 ⑥日々の活用に加え、授業や家庭学習での活用強化週間実施【毎学期、1週間】 ⑦東京ベーシック・ドリル診断テスト【毎学期実施・正答率向上】	A	B	【①授業改善】 **◆学力調査「分かる」国語82%・算数76%** **◆アンケート「分かる」児童92%　「分かりやすい授業」保護者90%** **◆アンケート「進んで取り組んでいる」　児童89%** ○①毎時間、ねらい(課題)を提示し、授業を行った。ペアや班で対話の場を設定した。 【②家庭学習】 **◆家庭学習(学年×10分)アンケート　児童80%・保護者72%** ○①「健康ふりかえりカード」の項目の中に、家庭学習の習慣を付けるよう欄を設けたところ、ほとんどの児童が取り組むことができていた。 【③一人一台端末】 **◆アンケート「タブレット活用」児童91%　保護者80%** ○③eライブラリなどでつまずきに応じて篠小タイムで活用するのは効果的だった。 ●③区の「eライブラリアドバンス」は、選択式ですぐに回答できてしまうため、間違えてもそのままで済ませていることが課題である。 ●③休み時間のタブレットの活用の仕方が学級によって異なっているので、学校として統一したルールがあるとよい。 ●③学習用端末の毎日持参の徹底を図り、充電して持ってくることを習慣化する。 【④補習】 ○④補習については、区外部講師による毎週の放課後補習教室、担任による補習指導とも継続的に実施できている ●④外部委託講師との連携をさらに図る。 【⑤教科担任制】 ○⑤5年生では、理・社・国で、2単元分を実施した。6年生でも、専門性を生かし、教材研究を深められた。学年の児童の実態が把握できた。 ○⑤1～4年生も国・算・図・道などで一部教科担任制や交流授業を実施した。学年での児童理解が深まった。指導方法の共有にもつながった。 【⑥eライブラリウイーク】 ○⑥毎学期、1週間、活用強化週間を実施し、熱心に取り組んだ。児童に賞状を渡すなど評価をすることで、日々の活用を促進させた。 【⑦東京ベーシックドリル】 **◆正答率　2学期は、1学期より3パーセント向上** ○③⑦篠小タイムでは、東京ベーシックドリル診断テストの結果をもとに、復習をした。算数の理解へとつながった。 ○⑦1学期の正答率が低かった問題をクラスで指導したり、個に応じて、類題の個別指導や前の学年の問題をさせたりしたことで、次の診断テストでの向上につながった。	A	○子供たちの学習意欲が高いことは、大変良いことで、授業づくりの工夫をしていることが分かった。 ○学校公開で参観したが、子供たちが個人でタブレットを持つ時代になり、授業の様子も大きく変わっていることを感じた。 ●意欲に伴って、理解も深まるとよい。 ○タブレットを使うことで家庭学習も楽しく取り組めるのではと思う。 ○授業以外にも補習をしているのがありがたい。 ○廊下の壁新聞などを見ると、くわしく熱心に書かれていて感心した。意欲を感じた。	【①授業改善】 ★授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 ・特別支援教育校内委員会と連携して、「スタンダード」を作成する。 【②家庭学習】 ②個々の実態に合わせた取り組みやすい課題を考える。 ②取り扱う教材の幅を広くし、児童の学習活動がマンネリ化しないように工夫する。 【③一人一台端末・⑥eライブラリウイーク・⑦東京ベーシックドリル】 ★eライブラリの有効な活用の仕方へと改善を行う。 ・計算問題や文章題での立式や筆算をきちんとさせるための方策として、必ず筆算等の計算をすることの再指導。計算メモ欄を使う。タッチペンの導入をお願いしたい。 ★各単元後は、「確認テスト」を必ず実施する。 ・やりっぱなしにさせないで、連動している「ドリル」も行い、100点になるまで行わせる。 ★毎学期の東京ベーシックドリルの診断テストの結果を受けて個々への対策を講じる。 ・正答できなかった問題の補充指導 ・正答できなかった問題について、前段階の問題に立ち返り、指導する。 ・全学年、算数の授業時間を2時間程度使い、全体での補充指導も実施する。 (6月実施分→7月に　11月実施分→12月に　2月実施分→3月に) ★CDTテスト結果の活用を図る。 ・次年度は、4月に実施して、課題を早期に見い出し対策を講じる。 ③個々の課題に応じた問題の設定をeライブラリーやプリント学習など様々な方法でアプローチする。 【④補習】 ④外部委託講師と担任が連携して、子供の学習状況を把握し、個に応じた指導を行う。 【⑤教科担任制】 ★区の施策であり、確実に実施していく。 ★年間を通して5．6年で実施する。1～4年も2学期より実施。 ・次年度は、年度当初より計画的に実施する。時間割上も適切に運営できるように組む。
いきいきと学ぶ学校づくり	体力の向上 2	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	◆校舎改築に伴う運動スペース激減に対応した日常的な運動の場の確保。 ①業間休みの運動遊び場所と時間の捻出 ②時程の弾力的運用と区教委・篠崎中の協力による長時間の遊び時間確保 ③河川敷・スポーツランド・近隣校での授業(水泳含)実施。 ～バス輸送、施設利用等、区教委との連携 ～近隣校プール使用に係る調整 ～水泳の外部指導員の手配 ④保護者の協力を得て安全を確保した校舎周辺道路での持久走練習	①体育館・小校庭を活用した運動遊び「しのあタイム」実施。【学級ごと・毎週】 ②区立公園・篠崎中での「あそぶでえー」実施。【各回45分・月2回ペース】 ③「健康ふりかえりカード」(前期)での肯定的回答。【8割】 ③児童アンケート・保護者アンケート(後期)での「体力づくり」肯定的回答【8割】 ④持久走やなわ跳びの運動に重点期間設定。(後期)【各2週間】	A	B	**◆アンケート「運動」　児童88%　保護者88%** 【①運動遊び・②あそぶでえ】 ○①朝の時間や休み時間をクラスごとに振り分けて、体育館や小校庭など限られた時間とスペースを最大限活用した。 ●②昼休みを長くとる「あそぶえー」の日は、時程を繰り上げて行うため、朝の健康観察を工夫して行う必要がある。 ○②篠崎中学校校庭や篠崎6丁目公園、スポーツ広場を学年で交代しながら利用し、「あそぶでぇー」では、よく体を動かし、遊んでいた。 【③授業】 **◆体力作りアンケート　児童89%・保護者88%** ●③保健室のケガの様子をみていると、体の動かし方を知らないと感じる。体の使い方を意識した遊びやストレッチを取り入れられるとよい。 ○③河川敷体育や他校を借りての水泳学習を行った。プールは、1～2学級ずつ行ったため、効果的であった。 【④持久走・なわ跳び】 ○④持久走、なわ跳び重点期間を設定したことで、「しのあタイム」「あそぶでぇー」以外での運動時間を確保できた。	A	○校庭がない環境での工夫が分かった。 ○区の施設や河川敷、近隣の学校の校庭やプールなど、協力を得ていてありがたい。 ○学習をはじめ、教育活動が多岐にわたり、尽力していただいている。小学校時代の思い出は友人と遊んだり触れ合ったりしたことが鮮明にあるので、自由な発想でもっと遊びを取り入れることも考えるのはどうか。	【①運動遊び・②あそぶでぇ】 ★「全校運動遊び」について、区で定められている方策を改めて確認して確実に実施する。 ・毎週10分以上、全体として運動遊びを実施する。 ・毎週の「全校運動遊び」は、「小校庭遊び」、「体育館遊び」、「あそぶでぇ」の時間の半分程度のいずれかをこれに充てる。 ・鬼遊び、ボール遊び、なわ遊び等、年間計画に準じて実施する。 ★体力テストの結果をふまえ、課題に応じた運動能力の向上とけがを防止をねらいとした、室内で行える運動を新たに加える。 【②あそぶでぇ】 ・クラスの仲が深められるよう、また、様々な運動遊びとなるよう、計画的にあそぶでぇでの遊びを工夫して考えていく。 【④重点期間設定】 ★次年度も1学期に「水泳」「体力テスト」、2学期から3学期にかけて「なわ跳び週間」と「持久走週間」の取り組みを計画的に実施する。 寒い時期の体作りに力を入れさせたい。

	読書科の更なる充実 3	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	【探究的活動】 ①区「読書科指導指針」に基づき、図書資料を活用して探究的に調べ学ぶ力の育成。 ～探究的活動の際には、学校図書館を積極的に活用。 ②調べたこと、学んだことを効果的に表現する力の育成。 【読書活動】 ③本が好きな児童、本で学ぶ児童を育てるための時間や環境の整備。 ④各教科等の授業充実を図るための、学習・情報センターとしての学校図書館整備と活用推進。 ～図書館司書の活用、区立図書館との連携強化	◆各学年に応じて多様なジャンルの読み物や図書資料に触れる。【6学年で6分類以上】 ①各教科や総合的な学習の時間と関連させた探究的活動を年間指導計画に位置付け【年度当初】、「読書科ノート」を活用した活動【年2単元以上】 ②調べたことを表現(書く・話す)し合う場の設定。全員が成果物を作成。【毎学期】 ③始業前の15分間の朝読書【週2回・年1000分間】、異学年間での交流や担任以外の教室訪問による読み聞かせの会実施【年3回】、学校応援団ボランティアによる読み聞かせの会実施【全学級・学期2回程度】、委員会児童による本の紹介【学期1回】、掲示物の整備や本の修復【ボランティア・毎月】 ④司書・ボランティアによる定期的な蔵書点検【毎学期】、団体貸出の活用と訪問【年1回以上】	B	B	◆読書・読書（調べる）活動アンケート　児童77%・保護者79% 【①探究的な活動】 ○①年間指導計画への位置づけはできていた。 ○①国語科と関連し、調べたことをまとめる活動を計画的に行えた。 ●①読書科ノートを活用した活動の計画ができていない。 ○②社会科見学での経験を新聞や報告文にまとめて発表する機会を設けた。 ○③朝読書や読み聞かせを通じて図書に親しむことができた。本好きな児童が育っている。 ○③異学年交流読み聞かせ、教員による読み聞かせ、ボランティアによる読み聞かせを実施することができた。 ○③今年度は、感染症予防対策をとりながら、貴重な読み聞かせの会を再開できた。 ○③エンカレッジルームの児童も読み聞かせは、好きで真剣に聞いていた。 ○③委員会児童による本の紹介、図書館の整備を行うことができた。 ○④学年によっては、区立図書館の団体貸出を利用して探究的活動を行えたことはよかった。 ○④図書館司書が、2週に一度来校したことで学校図書館の整理などができた。 ●④学級の授業サポートには至らない。	B	○本校は、ずっと読書活動を大切にしていて、読み聞かせなどのボランティア活動も継続しているのがよい。 ○親子で一緒に本を読む時間を設けるなど、家庭での日常生活にも根付くとよい。 ○丁寧に調べるには、インターネットよりも図書資料の方がよいと思う。蔵書の量や種類、新しいものであることなど充実を図ってほしい。	【①②探究的な活動】 ★読書科の年間計画の中に「読書科ノート」の活用ページを明示する。 ・成果物としてだけでなく、探究活動の途中のワークシートとしても大いに活用する。 ②各教科との関連を確認して年間指導計画を見直し、探究的な学習で読書科ノートを活用して調べる学習を行い、互いに見たり聞いたり伝え合ったりできる活動を実施する。 【③④読書活動】 ★図書館の人をゲストティーチャーとして招く場を積極的に設ける。 ・3年生の調べ学習の導入段階で説明してもらう。 ・ブックトークをしてもらう。(全学年) ・毎月団体貸出を行い、学級図書を増やす。 ③担任以外の教室訪問による読み聞かせは、全クラスで、テレビ画面に映し、後ろの児童にも本が見えるようにする。 ③ボランティアと連携を図り、読み聞かせ活動の回数を増やしたい。 ④全学年が団体貸出を利用できるように、年間計画を作成する。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進 4	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	①特別な刺激が少なく学習に集中できる居心地の良い教室作り、焦点化・視覚化・共有化を図って、誰にとっても分かりやすい授業づくりの実施 ②特別支援教育校内委員会の充実 ～全教職員で篠崎の子を見るという視点での共通理解と支援体制の確立。 ③コーディネーター・特別支援教室専門員・巡回指導員・心理士との連携を密にし、児童への指導方法や指導内容の共通理解を図る。 連携型個別指導計画を活用した通常の学級での特別支援教育の推進 ④児童・保護者の特別支援教室についての理解推進、啓発 ～特別支援教室に通う児童への理解を高める。 ⑤副籍児童との定期的な交流の実施	①管理職による授業観察と指導【毎学期】、専門家を招いた研修会の実施【年2回以上】 ②毎回の校内委にて配慮する児童の新たな手立てを検討する。【手立ての数が増える】 ③エンカレッジルーム、支援が必要な学級、職員室待機の割当てに基づく対応。【毎日】 ④児童アンケート・保護者アンケート(後期)によるエンカレッジルームの認知度や受容度についての肯定的回答。【8割】 ⑤共同学習や交流会実施【毎学期1回】	B	B	【①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導】 ○①専門家を招いた研修会が昨年度よりも多く実施され、学びや授業改善につながった。 ○①専門家相談などの研修会で、ある児童について有効な手立てを具体的に学ぶ機会が持てた。多くの教員が参加することで、対象児に対応する際の手立てを共通理解するとともに、自身が対応する児童にも活用できる指導方法を学ぶことができた。 ●①ユニバーサルデザインを取り入れた指導については、さらに、視覚化や焦点化を図っていくことが必要。 【②校内委員会】 ○②特別支援委員会や専門家からの助言で手立ての数は増えてきている。 ○②エンカレッジルームの割当てを通じて、支援が必要な児童を教職員全体で見守ることができた。 ●②校内委員会で共有したことを、教員全体にも共有する必要がある。 ○②職員夕会などを通じて、児童の実態把握、共通理解ができた。 【③④エンカレッジルーム】 ◆認知度・受容度アンケート　児童81%　保護者79% ○③エンカレッジルームに毎時間担当がついて、個別対応できている。さらに丁寧に対応できるよう校内委員会を中心に検討できた。 ○③エンカレッジルームでの対応により、教室とエンカレッジルームの両方利用ができることで、安心につながっている。 ●③エンカレッジルームで学習できる課題の設定には工夫が必要である。 ●③エンカレッジルームでのルールを明確にする。 ○④1．2年生が、クラスごとに特別支援教室に全員で行き、巡回指導教員が「かえで教室」についての話を聞く機会を設けた。 【⑤副籍児童との交流】 ○⑤大塚ろう学校や葛飾盲学校との交流を行った。障害者理解につながった。	A	○一人一人にあった配慮がなされていることが分かった。安心してすごせるよう今後も取り組みを続けてほしい。 ○専門的で新しい見地からの考えを研修によって得ていることが分かった。	【①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導】 ★教室環境、指導方法のユニバーサルデザイン化を推進する。 ・学力向上委員会と連携して、「スタンダード」を作成する。 ・教室環境について点検し合う。 【③エンカレッジルーム】 ★エンカレッジルームの約束を明文化する。 ★担任は、児童に合う課題を用意する。 ・各時間の担当は、それを行い、記録ファイルに記入。 ・担任は、毎日そのファイルを確認して、次の日の課題を考える。 ・担任は、月に2回はタ会で児童の様子を報告し、全教員で児童の様子を共有し、一貫した指導が行えるようにする。 ・担任は、児童と話す時間を作り、課題の取り組み方を説明したり、頑張りを認めたりして関係性を築く。 ・「エンカレッジルームでの過ごし方」を掲示し、必ず20分間は課題に取り組む(落ち着かない時は静かに過ごす)よう促す。 ・児童の個別ファイルを作成し、実施した課題をファイルしていくことで、頑張りを視覚化する。 ・エンカレッジルーム担当の教員は、必ず出向く。授業の変更で難しい場合には、職員室待機の教員に交代の旨を伝える。安全面も含め、児童だけの時間がなるべくできないようにする。
		・子供たちの健全育成に向けた取組 5	①ふれあい活動～学級や異学年での協力的な活動 ②「元気な挨拶、丁寧な言葉遣い」を重点として年間を通して推進。 ～「いつでもどこでもだれにでも」さわやかなあいさつと返事が自分からできる子を育てる。 ③アンケートや面談による児童の実態把握。 ④教職員間の情報交換と共通理解 ⑤Hyper-QUの結果分析による学級経営の改善 ⑥ふれあい月間での思いやりの醸成の取組	①ふれあい月間にて、思いやりの心を醸成し行動につなげる取組の実施【毎学期】 ②児童会によるあいさつ運動実施、週目標を通した呼び掛け【各学期】アンケート【8割】 ③学校生活アンケート・ふれあい月間での丁寧な聞き取り【学期1回以上】、HyperQ-Uテスト【年1回】、スクールカウンセラーによる5年児童全員面談【年1回】の実施。 ④特別支援教育校内委員会・判定委員会【毎月】、全体研修会【年4回以上】、情報交換連絡会【毎週】の開催、区生活指導連絡協議会の内容伝達【毎回】の実施。 ⑤学級全体としての改善策の実施による児童アンケート(後期)結果の向上【8割】 ⑥6月、11月、2月に、全校で取り組む自分と他人の違いを互いに認め合う取組を実施。児童アンケート・保護者アンケート【8割】	A	B	【①ふれあい活動・異学年交流】 ◆アンケート「異学年交流」　児童94%　保護者92% 【②挨拶】 ◆あいさつ・返事アンケート　児童88%　保護者79% ○②きちんと挨拶をするよう継続して指導した。 ●②はっきりと話すことを意識してしない児童もいる。 ○②校門で高学年があいさつを元気にしてくれると、他の児童もあいさつを交わしていた。特別な取り組みがなくてもできるようになるとよい。 ●②気持ちの良いあいさつの定着には、個人差がある。年間を通して、指導を工夫する。 ○②委員会による挨拶運動や、担任の率先した指導により、すすんで挨拶ができる児童が増えた。 ●②返事をすることが十分にできていない。 【③アンケート・面談】 ◆アンケート「児童満足」　児童91%　保護者84% ○③学校生活アンケートをもとに、一人一人聞き取りをすることで、児童理解やいじめの早期発見につながった。 ○③5年生は、SCによる全員面談を実施した。児童の悩みや不安なことを聞き取り、連携して早期対応ができた。 ○③ふれあいアンケートの聞き取りも担任とSCが同席して、その後の対応につなげることができた。 【④情報交換と共通理解】 ○④校内の生活指導全体会や特別支援校内委員会において、要配慮児童の対応について共通理解を図れた。 ●④各学年の情報の共有がさらに必要。	B	○あいさつは、基本中の基本だ。徹底した指導してほしい。 ●時代的なことや、マスクをするコロナ対策の影響もあるが、外で我々とあいさつを交わす子は少ない。しかし、中学校での事例(朝、校門前でのあいさつ運動を継続することで広がり、卒業してからもあいさつしてくれる)もあるので、工夫してほしい。 ○先生方が、日頃から職員室で大きな声であいさつを交わすなど、手本を示すことで子供たちにより習慣が根付くと思う。	★あいさつについては、児童発信の取り組みを充実させる。 ・高学年、児童会等で工夫する。 ★生活指導部と特別活動部で連携し、「あいさつ・廊下歩行」等の取り組みについて、年間を通して計画的に実施できるよう一覧に位置付ける。 ・あいさつは校内だけでなく、校外(旗振り当番の保護者の方々)でもできるよう、学級指導等、継続して行う。 ★指名されたら、まず返事をすることの指導を徹底する。 ★挨拶の具体的な声、発声の仕方を指導する。 ・声の大きさではなく、口の開け閉めを意識して、明確な話し方を指導する。

	子供たちの健全育成						【⑤学級経営の改善】 ◆アンケート「規範意識」　児童94%　保護者95% ◆アンケート「協力」　児童94% ○⑤Hyper-QUについての研修をもとに、全担任が結果から今後の学級経営について改善策を考えた。 ○⑤アンケートやハイパーQUの結果に基づき、児童へ個別対応を行った。また、保護者との個人面談で結果を共有し、連携して児童の支援に当たった。 【⑥ふれあい月間】 ◆思いやりアンケート　児童96%・保護者97% ○⑥「友だちのいいところさがし」「ふわふわことば」は、教室に行けない児童も教室にいる児童も参加でき、自己肯定感も高められ、友だちのことを考えるよい機会になった。		●不登校の子供たちが心配だ。中学校ではかなりいると聞く。卒業にあたっては、しっかりと申し送りをしてほしい。	★金曜日の打ち合わせを生活指導夕会とする。 ・生活指導に関する問題が生じた場合、夕会で情報共有をする。 ・各学年の様子の報告と具体的な対応の共有を全教職員で行う。 ★生活指導部会でも、現状や取組について詳しく話し合う。 ★ふれあい月間では、全校であいさつ、「ふわふわことば」「よいところさがし」を行うことは大切なので継続する。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校関係者評価を通して、評価の視点、評価指標・成果指標に基づき、意見や評価を学校経営、学級・学年経営、専科経営などに反映させていく。	①「学校評議員会・地域教育推進会」の実施【毎学期】 ②学校公開への参観【年4回】 ③行事への参観【毎学期】	A	B	●①学校関係者評価の詳しい内容をもっと周知徹底させたい。 ○②③コロナ禍における3密対策をとった上で学校公開を実施できた。時間によって、保護者入れ替えをしたり、チケットによる健康状態を行うことで、保護者に安心感をもって参観できるように工夫ができた。 ○③音楽会では、一番時間がかかろと思われた座席の移動であったが、保護者がスムーズに動いてくれたことで時間内で運営できた。	A	○今年度は、運動会や学校公開、謝恩会まで参加することができ、教育活動の様子、子供たちが元気に活動する姿を実際に見ることができて大変良かった。4年ぶりの卒業式参列も楽しみにしている。 ○できるだけ学校の様子を伺い、子供たちの元気な姿を見に来たい。 ○音楽会の保護者の参観の仕方もスムーズで良かった。	①組織の長がもっと関わって分析や対策を練る形にすることで、組織全体で問題を共有していく。 ②③授業公開をグループに分けて実施する場合の時間割当てについてさらに改善を図る。
		地域に開かれた学校としての取組の実施	・教育活動及び校舎改築に関する情報の積極的な発信。 ～説明責任を果たす。 ～理解と協力を得て教育活動を充実。 ・保護者との連携 ～保護者会や専科などを含む全教員による面談を実施し、共通理解を図ったり、悩みに応えたりする。	①学校ホームページへの学校・学年・保健だより掲載【毎月】 ②学校ホームページ「学校日記」への授業や児童の活動の様子、給食を写真を添えて掲載。【各学年・専科でそれぞれ月3～4回】 ③学校公開の実施【年4回】 ④保護者会の実施【年3回】 ⑤個人面談の実施【年1回＋随時】 ⑥新1年生保護者説明会【年2回】	A	B	◆たより・ホームページでのお知らせ　保護者アンケート94% 【①各種おたより】 ○①学年だより、保健だよりをホームページに掲載した。 【②ホームページ】 ○②各学年、教科の取り組みを伝えられることは、コロナ禍の学校教育において、児童の姿を保護者に伝えられ、よい機会であった。 ○②学校ホームページへの児童の活動の様子や給食の写真の掲載について、実施することができている。 ○②始めのうちは更新が滞ってしまったが、学年で分担してうまく更新できるようになった。 【③学校公開・④保護者会・⑤個人面談】 ◆行事や授業の参観　保護者アンケート90% ◆保護者会・個人面談　保護者アンケート92% ○●③コロナ禍であっても、保護者会を実施できたことは、よかった。対面とオンラインを同時に実施することは可能であるが、難しく感じた。来校した保護者へ向けて話したい半面、オンラインの方が参加者が多いと、そちらへの対応も重視せねばならない状況であった。 ③④⑤コロナ禍における3密対策をとった上で学校公開を実施できた。時間によって、保護者入れ替えをしたり、チケットによる健康状態を行うことで、保護者に安心感をもって参観できるように工夫ができた。 ○⑤専科の面談も実施した。面談希望がない保護者も当日保健室にいらして面談を実施することもあった。どちらの場合も、保護者と情報共有できる貴重な機会としたい。 【新1年生保護者会】 ○⑥プレゼンテーションソフトを活用して、学校の様子を丁寧に伝えることができた。	A	○感染症対策を念入りにした上での授業公開や行事への参加は、保護者も安心できたと思う。 ○来校して参加するだけでなく、保護者会や個人面談など、場合によっては、オンラインで家庭からでも参加できる方法を用意し、選べることが新しい工夫で良いと思う。 ○印刷物やホームページでの紹介は、これからも充実させてほしい。	★運動会や学校公開、音楽会のように、今後も入れ替え制を継続していく。 ★ホームページは、普段の授業の様子を積極的に発信していく。（月3～4回以上） ②児童の様子を月4回ホームページに掲載できないことがあった。学習の様子を定期的に保護者へ知らせることができるように学年間で声を掛け合う。
	家庭・地域との連携	地域の教材化と教育力活用	・学校や地域の伝統、文化、環境、歴史を学び、その良さを感じさせる活動の実施。 ・体験活動やゲストティーチャーを招く授業の実施 ～児童の興味関心を広げ、学びに向かう意欲を高める。 ・各学年の学習活動に応じた地域人材の活用。 ・次年度の開校140周年に向けた、地域に関する研修の実施。 ・学校応援団とのさらなる連携。 ・PTAや町会、地域の活動、伝統的な行事等への積極的な参加を促す。	・「えどがわ大好き・しのざき大好き」をテーマに地域と関連した活動を年間指導計画に位置付ける。【年度初め】 ・本校の特色ある教育活動である「凧作り」等地域の伝統文化を調べて体験する活動【後期】の実施。 ・地域へ出向く機会、地域の方々がお越しいただける機会の設定。【全学年で実施】アンケート【8割】 ・地域の方をお招きし、篠崎の歴史や魅力について学ぶ教員研修会の実施。【夏季休業中】 ・店舗や小松菜畑等、町の様子の実地見学、伝統工業の体験学習の実施。【単元実施時】アンケート【8割】 ・地域におけるスポーツや文化行事で活躍した児童を表彰【随時】	A	B	◆地域学習アンケート　児童81%・保護者90% ◆体験的な学習アンケート　児童92%・保護者86% ○ゲストティーチャーによる授業は、児童の興味関心をひく良いものであった。 ○生活科の年間指導計画に基づき、「町たんけん」や「生活科見学」を通して、篠崎の町にある施設や、篠崎の町で働く方々との交流を通して、地域への理解が深まった。 ○地域の方から、お話を伺える機会があり、歴史や地域の方の思いを知ることができた。 ○生活科見学で篠崎ボニーランドへ行き、乗馬体験等をさせていただけたのは、よい学びになった。 ○竹と親しむ公園で地域の方々に協力していただいて学習した。 ○生活科の「まちたんけん」や生活科見学では、地域のお店や公共施設に出向いて、地域の方と関わりながら学習活動を行えた。 ○江戸風鈴の学習、凧あげなど地域ならではの学習、体験ができている。 ○学年の実態に応じて、児童の意欲・関心を育てることができた。140周年に向け、地域をよく理解することができた。 ●ただ、時間割変更等が急だと対応が難しいので、計画的にできるとよりよい。	A	○コロナ禍で限定されているとは思うが、出かけたり招いたりする場を作ったのは貴重だと考える。 ○小学生の段階で、本物に出会ったり、実際に体験させたりする場を設けることは、とても意味深いので、さらに充実させてほしい。 ○周年行事があるので、この機会に篠崎の町に対する愛着を大いに育んでほしい。 ○PTAとしては、「篠小フェスティバル」をここ数年開くことができず残念だったが、ラグビーの元日本代表選手やプロの女子選手を招いた特別授業を開催することで、子供たちに良い思い出を作ることができたと思う。 ○「子ども会」としては、久々にクリスマス会や「もちやき」大会を開くことができ、親子で参加する子の笑顔をみることができた。地区の卓球大会やレクリエーション大会も3年ぶりに実施で	★年度当初から、各学年の年間指導計画に、地域学習をさらに位置付けて実施していく。 ・140周年に向けて、学校や地域の歴史を学ぶ機会をさらに設ける。 ・校外に出る際は、意識して地域の建物や自然に意識を向けさせていく。 ★今後も様々な分野のゲストティーチャーを招き、児童の興味関心を広げ深めていく。 ・総合的な学習の時間担当が、ゲストティーチャーを招く授業を「一覧表」に明記する。 ・体験活動やゲストティーチャーによる特別授業については、事前に計画立てて実施していく。

		8						きた。今後も地域の行事を盛り上げたい。		
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」 9	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・校務分掌組織を機能的に運用。 ・会議での検討内容精選や進行方法の工夫による時間短縮。 ・C4th活用による連絡効率化。	・定時一斉退勤日の設定【月1回】 ・各会議の時間短縮【45分以内】 ・口頭による打合せ内容を事前エントリー限定にし時間短縮【各15分以内】 ・超過勤務時間削減【月45時間以内】	B	B	【①定時一斉退勤日】 ●①定時一斉退勤日が機能していない。 【②会議の時間短縮】 ○②目安の時間をあらかじめ決めておくことで、会議の短縮につながった。 ●②時間短縮を目指した結果、共通認識をすべきことが抜け落ちてしまったこともあった。 ○②提案者の持ち時間の設定を行った。結果、会議時間が短縮できた。 【③夕会】 ○③夕会の打ち合わせ内容を事前エントリーに限定したため多少時間は短縮できた。 ●③まだ、C4thでの伝達で済むことが出されている面もある。 【④超過勤務時間削減】 ●④超過勤務月45時間以内を目指して勤務を行ったが、校務分掌業務の優先度がいつも高く、担当学級のプリント類やテスト類の採点、教材研究など、学級の業務が滞ってしまった。 ●④放課後の校外での児童に起こったことへの対応を行うことが多くある。	B	○様々な取り組みをしていただいているが、健康に留意して今後も子供たちのためによろしくお願いします。	★会議や研修が十分にできるよう、担任が玄関まで引率して確実に下校させる。 ★会議の資料は、C4thを活用し、原則一週間前には部会のメンバーあるいは参加者が閲覧できるようにする。（日程面で隣接している場合は、できるだけ早く。） ・各部会、企画等での検討を受けた変更は、必ず加除訂正した上で次の会議での文書とする。 ★週時程を変更して、到着時間の幅をもたせて登校させる。清掃時間も変更して、放課後の時間を有効に使えるようにする。 ★関係機関との連携を図る。
	思いやりの醸成 10	・様々な相手と関わる場、体験を通して心を育む取組の実施	①異学年交流の場の設定 ②「人権の花」の栽培 ～人権について考え、配慮する子を育てる。	①係活動や委員会活動【日常】、仲よし班遊びや読み聞かせの会など異学年交流の実施【毎月1回】、全校遠足や篠小学園祭等の行事における交流【学期1回】 ②「人権の花」を育てる水やりリレー【全学級・各1週間輪番】	A	B	【異学年交流】 ○①4月にお世話になった6年生と仲良し班あそびや篠小学園祭など、年間を通して交流することで、お互いの名前を覚え、関係を深めることに繋がっている。 ○①年間で班を固定して遊ぶことで、兄弟学級であたたかい交流ができ、異学年でも親しみを持つことができた。 ○①異学年交流を通して、児童の 上学年としての自覚が高まった。 【人権の花】 ○②「人権の花」の水やりを忘れずにするようにした。	A	○学力面の課題に対し、篠小の良さは「異学年交流」で、長い積み重ねがある。登校班は、年度末と年度初めだけになったようだが、様々な場面で交流があることは良き校風として続けてほしい。	★鄰下歩行に限らず、あいさつなど様々な観点で、キャンペーンを実施する。
	豊かな感性の育成 11	・自然を慈しみ、四季の変化を感じる活動の実施	・学校農園を活用した植物の栽培や成長過程の観察、水やりや草取り等の活動、昆虫観察等の実施。 ～実物に触れる体験活動。	・理科や生活科、総合的な学習の時間等の指導計画に沿った栽培や観察の実施 ・全校朝会の校長講話で地域の自然についての関心を広げる。	B	B	**◆農園活動アンケート　児童77%　保護者93%** ○春から秋にかけては、作物がとてもよく育ち、農園があることで学習の深まりが見られる。 ●冬の間は、特に活用する機会が少ないように思える。 ○全校朝会の校長講話で地域の自然や季節の植物などを話していただくことで、自然についての関心を広げることができた。 ○小松菜農家での見学や、農園で小松菜の栽培をした。 ○理科ではヘチマ、総合的な学習の時間では稲を育てた。実物に触れる体験活動を重視した学習を行った。 ○学級での活動に加え、栽培委員会も水やりなどを行い、自然に親しむ気持ちが醸成できた。 ○学年、学級としては計画通り実施できた。（特別活動として、全校での草取りを計画していたが、暑さのため中止になってしまった。）	B	○楽しそうに活動している姿が見られるのが良い。もっとホームページ等で活動内容を知らせてほしい。 ○身近な自然についての講話に関する掲示物が校舎内にあった。都会の中で、自然を探す視点を子供たちに示すのは大変良い。	★各学年で栽培計画を立てて計画的に実施する。 ・事前に計画を伝えて、農園ボラリンティアの協力を得る。 ★人権の花は、次年度も年間を通して水やりを当番を組む。 ・成育過程について、代表委員会が知らせる機会を設ける。 ★人権の花などの取り組みのように、冬季の農園の活用方法を考え、栽培活動や自然と触れ合えるような取組にする。 ★水撒きや草とりは、学級ごとに休み時間を活用して計画的に行う。
	児童の安心安全 12	・コロナウイルス感染予防対策の徹底	①学校生活における対策と指導 ②学校の環境整備 ③児童自ら安全な行動をとる力の育成と指導 ④行事等における安全対策の実施	①検温・体調確認「健康観察表」【毎朝登校時】給食当番チェックと配膳のルール【毎日】 ②手指消毒用アルコール設置、薬務用扇風機導入での換気強化。 ③合言葉「あいてますか」の徹底(距離・手洗い・マスク・換気)【随時】 ④運動会・学校公開・夏休み作品展での参観者分散入場（完全入れ替え制）とチケットによる体調管理【毎回】	B	B	**◆感染症予防対策アンケート　児童96%・保護者91%** ○①②③毎日、確認を徹底することができた。 ○①毎朝の健康観察カードのチェックと、ハンカチとティッシュを持ってきているかどうかのチェックを行った。 ○②③扇風機を活用して、教室の換気を強化した。児童間の間隔を空けて学習活動に取り組んだ。 ●③子供同士の距離がどうしても近くなりやすいので、言葉掛けを常に必要とした。 ○④コロナ禍における3密対策をとった上で学校公開を実施できた。保護者の人数を分散して、入れ替えをしたり、チケットによる健康状態を行ったりすることで、保護者に安心感をもって参観できるように工夫ができた。 ○④音楽会での間隔をあけた座席や学校公開・保護者会でのチケット制など、力を入れていると思う。	B	○来校時に、玄関で消毒する場所や児童検温器が設置されていたり、運動会に出向いた時にも、入れ換え制にしていたりするなど、対策を徹底していることを感じた。 ○換気扇を導入してまで換気に力を入れていることが分かった。 ●3月以降緩和された後に、どう安全策をとるかが逆に難しくなると思う。	★さらに、対策を徹底する。 ・ハンカチの形態などこまめにチェックしながら徹底させる。 ・人との距離については、毎日指導する。 ・扇風機を活用して、換気を徹底する。 ・給食準備中のルールを徹底する。